

## 倉敷市消防局

### 1、概要

平成9年5月1日、倉敷市消防局が運用開始、平成27年4月1日全面改修して会館。一般会計1752億円中、消防予算は約43億円、2%。(平成29年度)。人口48万、21万世帯。

### 2、以下説明と、質問に答えて頂いた物をまとめる。

- ①職員数458人、うち12人が再雇用。女性は5人。他に32人の消防音楽隊がある。消防団員は1945人うち80人女性。
- ②火災の原因では、たばこが112件中12件、放火または放火の疑いが17件、配線9件、コンロ8件など。
- ③消防車両の整備に力を入れ、とりわけ消防車に取り付けられた車載カメラ11台は消防活動に力を発揮している。指揮者4カメ、タンク車6カメ、救助工作車1カメ。目的地に向かう行程、現場の状況がつぶさに本部に伝わり、客観的な指示を伝えることが可能である。何処から呼んでも10分程度で来る。
- ④南海トラフにむけて様々な環境を更新している。458人中5人が女性、今後さらに増やす予定。専用施設を作りたい。採用試験をもっと女性も受けてほしい。平成32年には2,5%12人まで増やしたい。
- ⑤救急が多いので車を更新したり救急救命士を養成して対応できる環境を整えたい。
- ⑥平成32年から防火対象物をHPに載せる方針で現在、査察を開始している。融資制度はないので困難が予想される。
- ⑦火災報知器の普及は66,3%、国の平均81,2%より低いので課題。(松本81%)。地域性があるので戸別訪問している。
- ⑧無線システムでは、車載カメラからの映像も見ることができる。高齢者用には1本余分にあり、年数件こちらに回るものもある。
- ⑨命のバトンの取り組みは各町会で行われる。カード式や冷蔵庫に入れるなど様々な形があるが倉敷市としては統一的なやり方はやっていない。
- ⑩車中泊の検討はまだやっていない。スペースはまだ作っていない。避難所の指定が第1で、車中泊はこれからの課題。指定避難所があるが車で来ていいとはなっていない。
- ⑪高所カメラが力を発揮している。松本はエリアが広いので数箇所必要。

### 3、倉敷市消防防災センターについて

防災センターが平成9年の運用開始以来初の改修工事を行い、平成27年4月1日リニューアルオープン。10のコーナーで成り立ち、火災、救急、地震災害などのさまざまな体験ができる。

#### (1)倉敷市MYハザードマップのコーナー

自分だけの防災地図が作れ、紙や携帯端末に取り込んだりして持ち帰ることができる。得られる情報は自宅周囲の避難所、震度分布、崖崩れ危険箇所、津波浸水危険区域など。こ

これらの情報を地図に落とし込み、MYハザードマップを作ることができる。子どもたちに大人気のコーナー。

(2)人工呼吸法やAEDの使用方法を学べるコーナー

(3)緊急通報コーナー

119番の通報をスマートフォンタイプと公衆電話タイプで体験できる。

(4)風水害のコーナー

風水害はいつでも身近な場所で発生する可能性がある。このコーナーでは倉敷市で過去に発生した風水害の写真などが見られる。

(5)火災のコーナー

炎や煙の動き避難方法を学べる。

(6)地震体験室

地震時の対応を学べ、体験もできる。阪神淡路大震災の体験と関東大震災の体験をした。ガスなど火器は揺れが収まってから消すこと、ドアを開けて避難経路を確保することなどを学んだ。

(7)消火体験室

模擬消火器で消火作業の体験ができる。

(8)避難体験室

火災時の避難の模擬体験ができる。真っ暗な部屋で煙をなるべく吸わないよう姿勢を低くして出口を見つける体験は大変貴重だと感じた。

(9)総合テスト

クイズで防災知識のおさらいができる。また、正解数が多いときは倉敷市のゆるキャラたちが登場して成績を称えてくれる。

(10)家庭の備え

非常持出品などの展示をしている。

## 感想

- ① 消防車の車載カメラは現地に向かう様子や現場の状況を本部で把握するために必要だと感じた。また、高所カメラも何か所か設置することが望ましい。
- ② 様々な被災体験や救急処置の体験ができる防災センターは必要性を論議する余地ある。地震体験については、直下型の体験ができる装置が重要と感じましたが、かなり予算が必要とのこと。